

**企業連携奨学制度を開設
テクノビジネス 組込みソフトエンジニアコース**

本年度スタートした組込みソフトエンジニアコースを対象に、企業連携奨学特待制度がスタートしました。この制度は、企業が対象者(入社予定者)に奨学金を貸与し、対象者をテクノビジネス専門学校に入学させて、必要な技術・知識を身に付けさせた後に本採用する制度です。

社会構造が格差社会化の傾向を示して依頼、高等学校において学費減免対象者や学費未納者が急増しています。これは、保護者の経済的な困窮を示しています。この状況は、結果として進学する能力・意欲が有りながら経済的理由で就職組になる高校生の増加につながっています。

IT産業など技術を必要とする仕事は、高卒では就く事は困難です。一方、組込みソフトエンジニアを始めIT産業全般には潜在的な求人難が続いています。そこで、当校が窓口になって、高卒予定者に就職と奨学金を取り持つ事によって一人でも多くの「望まない就職組みの生徒」に進学と就職を手に入れてもらいたいとの思いからスタートした制度です。

生徒・企業双方の架け橋となり、対象範囲のコースも将来広がればと期待しています。

今後より一層企業との連携を深めて、産業界から注目される専門学校へと進んでゆきます。すでに社会で活躍されている卒業生のみなさんも、たまには古巣の学校に顔を出して仕事の事など教えてください。

**「テレビ神奈川社長賞」を受賞
日本語科 張 維穎さん**

日本語教育振興協会の関東甲信越弁論大会が7月18日に開催され、テクノビジネス専門学校日本語科の張維穎さん(中国・蘇州出身)が、「テレビ神奈川社長賞」を受賞しました。

この弁論大会は関東甲信越地区の日本語学校66校からテープ審査で選ばれた17名(10か国)が出場する、レベルの高い大会でした。



張さんは、「四川大地震で亡くなった若者の無念さを思うと、今、生きている私たち留学生は何をすべきか、異文化理解、相互理解を深め、協力することが大切、周りにいる人と仲良くなることから始めたい」と訴えました。亡くなってしまった若者の悲しさを切々と伝え、「できることから始めよう」と力強くスピーチしました。

**西公会堂で校内スピーチコンテスト実施
テクノビジネス専門学校 日本語科**

7月11日(金)に日本語科の校内スピーチコンテストを実施しました。今年は、会場を西公会堂に移し、慣れない会場での開催となりましたが、実行委員の学生たちが積極的に自分の役割を果たし、学生主体のとても有意義な会になりました。

最優秀賞は、モンゴル出身のナランチメグさん。おじいさんおばあさんから聞いた言い伝えや、故郷の川で「水の中を掃除する蛇」に遭遇するという驚きの体験を紹介しながら、「自然を大切にしよう」と訴えました。



**モンゴル国にパソコン60台を寄贈
テクノビジネス専門学校**

テクノビジネスは入れ替えて不要になったパソコン60台をモンゴル国へ寄贈しました。テクノビジネスには、モンゴルからの留学生が13人在籍していますが、この留学生受入で縁のある日蒙友好交流支援協会が、横浜市の医薬品などをモンゴルに寄贈するのに併せて同協会を通じてモンゴルへ寄贈したものです。

昨年12月には、学生・教職員はじめ多くの方々のご協力で梱包作業などを行いました。輸送も横浜の国際輸送会社のご協力で1月に中国・天津経由でウランバートルに輸送。2月には松井校長がモンゴルへ赴き、モンゴル国厚生省で寄贈品を引き渡し、横浜市長や岩谷理事長への感謝状をいただきました。モンゴルでは新聞・テレビで報道され、神奈川新聞にも記事が掲載されました。

また、4月末には寄贈先であるバヤンホンゴル県の県立総合病院を訪問しました。寄贈した医薬品もパソコンも、この病院の診察室をはじめ多くの部署で大活躍していました。



**専門課程でもスピーチコンテストを実施
テクノビジネス専門学校 専門課程**

6月26日、第1回の校内日本語スピーチコンテストを開催しました。クラス予選を経て出場した15名の学生のスピーチは、大変内容の濃いものでした。

『来日して数年という日の浅い子が多いにもかかわらず、誰もが巧みに日本語を話す様子にまず驚きました。語りきれない言葉でしかも大勢の人々の前で話すという体験の重さ、それをみなで静聴し相互採点することから学ぶことの意義。このような機会を設け、本日実施にいたるまでにどれほどの努力があったことか、敬服いたします。…』



最優秀に輝いたBHATTARAI HIM LALさんの語るネパールの「村」の生活には、会場中がどよめいていました。「病気になっても、昔ながらの治療法しかありません。当然、直りません」との言葉に大笑いし、次の瞬間、背筋が凍りつきました。…一方で「ネパールの自然のすばらしさを知ってほしい」と語る彼のスピーチは、難しい言葉は一切使われていないのに、どんな雄弁な官僚の答弁でも聞くことのできない、インフラ整備と文化交流・自然交流の重要性を指摘する説得力に満ち溢れていました。』(来場者の感想から。一部省略)

**韓国・柳韓大学からインターンシップ生
4月から8月まで、エクレスとテクノで職場実習**

4月19日、韓国からキムムンソンさんとパクスヒョンさんの2人が、インターンシップのため来日しました。

1か月間の日本語研修後、3か月間エクレス幼稚園とテクノビジネスで職場実習中です。2人は韓国柳韓大学産業日本語学科2年生です。

